

1 調査の概要

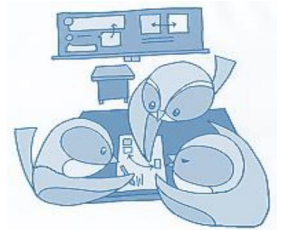
調査概要		調査の目的	今年度の調査の特徴
実施日	令和8年4月23日(木) 【小学校:国語・算数、中学校:国語・数学】 令和8年4月20日(月)～4月23日(木) 【中学校:英語(「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」)、質問調査】 令和8年4月24日(金)～5月29日(金) 【中学校:英語(「話すこと」)】 令和8年4月24日(金)～5月8日(金) 【小学校:質問調査】	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、また教育施策の成果と課題を検証する。 課題に対して改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 さらに、一連の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。	- 中学校第3学年の英語(4技能「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」)の問題については、IRT※1を活用しCBT※2で実施。 - 児童生徒質問調査では、児童生徒ごとに一部異なる質問項目に回答するランダム方式を採用。 ※1 IRT… 児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコア(IRTスコア)を推定する統計理論(項目反応理論)。 ※2 CBT…Computer Based Testing(コンピュータを使用して行う試験方式)
調査対象	小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒		
調査事項	小学校第6学年:国語、算数、質問調査 中学校第3学年:国語、数学、英語、質問調査 学校質問調査【小学校・中学校】		

2 教科調査 平均正答数・平均正答率・無解答率

教科	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語 ※3
堺市(平均正答数)	7.7/13問	8.8/16問	8.9/15問	8.4/16問	—
堺市(平均正答率)	60%	55%	59%	53%	491
大阪府(平均正答率)	59%	56%	61%	55%	498
全国(平均正答率)	60.9%	56.4%	63.9%	57.0%	499
堺市(無解答率)	3.6%	3.3%	7%	14.2%	4.8%
全国(無解答率)	3.4%	3.2%	4.9%	10.4%	3.4%

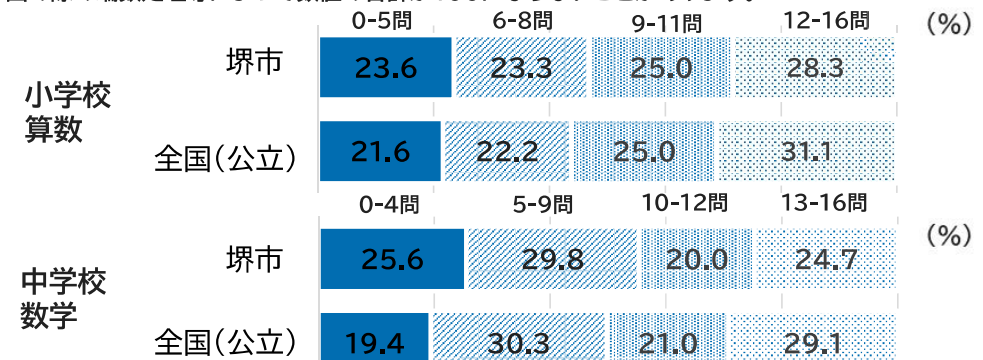
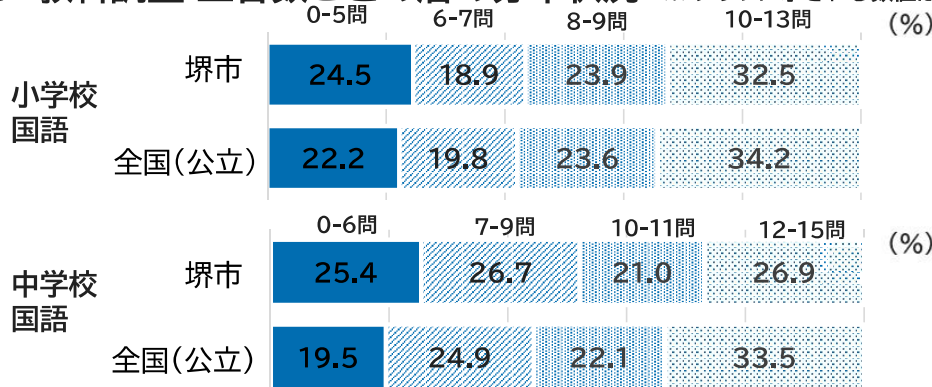
※3

英語は3年に1度程度実施(前回は令和5年度に実施)
IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準値としたIRTスコアで算出



3 教科調査 正答数ごとの層の分布状況

※ グラフに示される数値は、データ算出の際の端数処理等によって数値の合計が100にならないことがあります。



※ 中学校英語は、IRT方式のため分布状況のデータなし

 調査結果の見方

「堺市調査結果」は、全国学力・学習状況調査の結果を「児童生徒」、「保護者」、「学校教職員」、「堺市教育委員会」が共有するものです。

今年度の調査結果を多面的に解釈し、市や学校の取組の改善及びこどもたちの学力の向上につなげることができるよう分析しました。「堺市調査結果」について、各項目ごとの見方を以下に示しています。

※ 調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、こどもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

※ グラフに示される数値は、データ算出の際の端数処理等によって数値の合計が100にならないことがあります。

**4 教科調査・質問調査結果状況**

3ページ

市全体の児童生徒の学力や学習状況等の特徴を把握しやすいよう、教科調査及び質問調査の結果を同じ基準に揃えて図式化しています。

全国平均をもとに、市の現状を確認することができます。

**5 教科別 調査結果**

4～8ページ

小中学校の各教科において、以下のように示しています。

左側 問題の分類別平均正答率や正答数ごとの児童生徒の分布状況を表やグラフで示しています。

※ 中学校英語はIRT方式が採用されています。

右側 多くの児童生徒がむずかしいと感じた問題を対象に、学びの改善ポイントや出題の趣旨を示し、児童生徒が問題を通して、各教科の物事を捉える視点や考え方(教科の見方・考え方)について考えることができるようにしています。また、調査問題や解説資料も二次元バーコードから確認することができます。

**6 質問調査 結果概要**

9～10ページ

3ページの「4 教科調査・質問調査結果状況」等から、特徴的な項目の質問調査の結果を分析し示しています。全国平均や、昨年度の同学年集団の回答結果をもとに、今年度の小6・中3の傾向を確認することができます。

**7 クロス分析**
8 堺市教育委員会の主な取組一覧

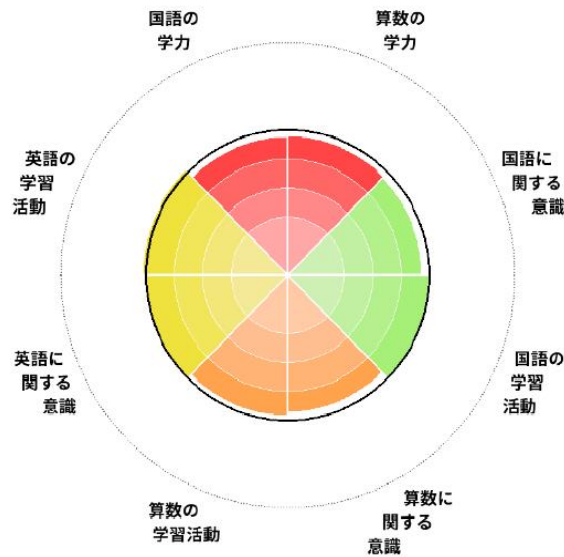
11～12ページ

児童生徒の実態を多面的に捉えることができるよう、質問調査と各教科の正答率とのつながりを示しています。

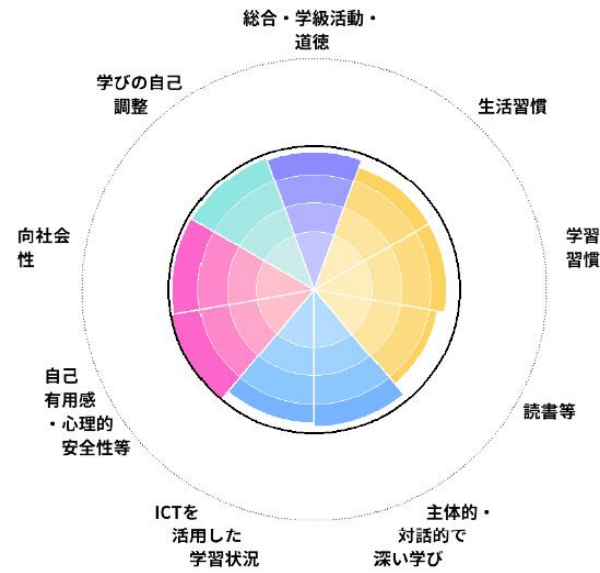
また、市がめざす「総合的な学力」の育成に向けて、調査結果の分析・検証の結果を踏まえ、総合的かつ計画的に進める施策や取組の一覧を示しています。

4 教科調査・質問調査結果状況（上:小学校、下:中学校）

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



左図について

市全体の児童生徒の学力や学習状況等の特徴を把握しやすいよう、教科調査及び質問調査の結果を同じ基準に揃えて図式化したもの

全国基準は実線で示している

左図からわかること

小学校

- ・〔教科を中心とした学力・学習状況〕において、例えば「英語の勉強は好きですか」など「英語に関する意識」の項目や、「国語の授業の内容はよくわかりますか」や「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか」など「国語、英語の学習活動」の項目が全国平均と同程度である。
- ・〔その他の学力・学習状況〕において、「自己有用感・心理的安全性等」の項目が全国平均と同程度である。一方で、「読書等」の項目が他の項目と比べ、全国平均と差がある。

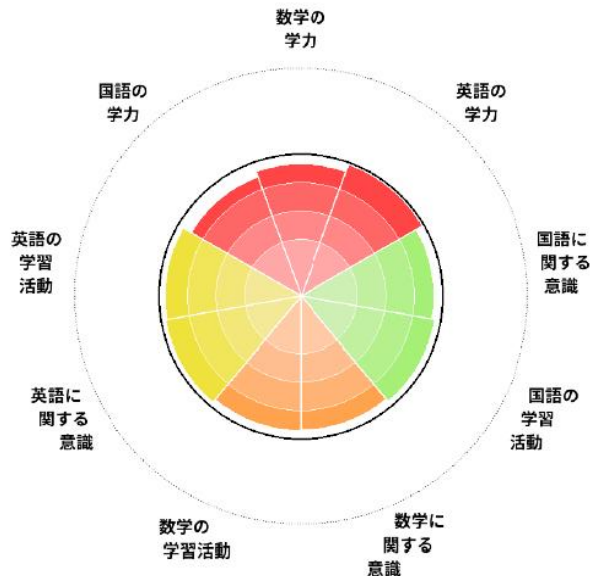
中学校

- ・〔教科を中心とした学力・学習状況〕において、「英語の学力」の項目が全国平均と同程度である。一方で、「国語、数学に関する意識」の項目や、「国語、数学の学習活動」の項目が他の項目に比べ、全国平均と差がある。
- ・〔その他の学力・学習状況〕において、「自己有用感・心理的安全性等」の項目が全国平均より高い。一方で「総合・学級活動・道徳」の項目や、「ICTを活用した学習状況」の項目が他の項目に比べ、全国平均と差がある。

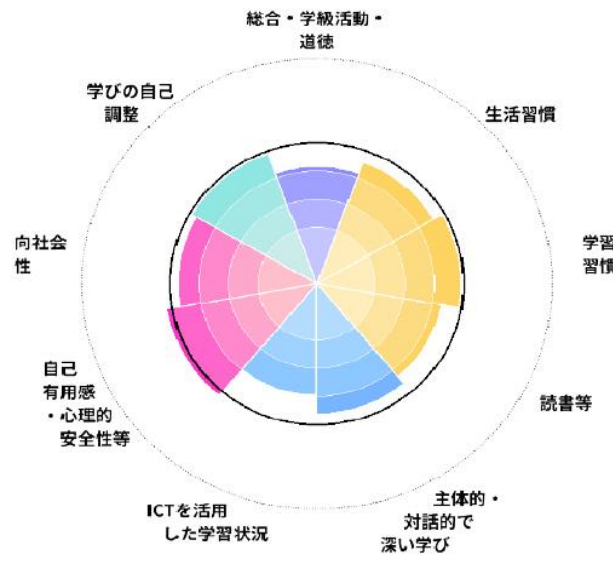
観点ごとの質問項目について

質問項目の一部を9、10ページに記載

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
（全国基準）



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
（全国基準）



5-1 教科別 調査結果 (小6・国語)

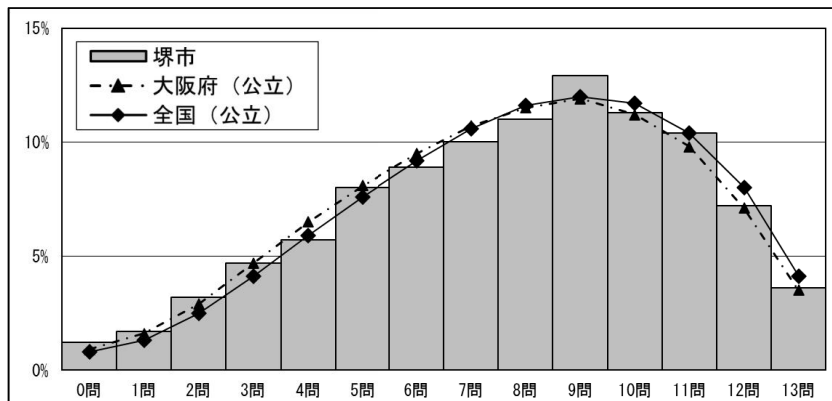
下の資料からわかる本市の状況

- ・(ア)では、学習指導要領の内容のうち、「C 読むこと」の区分の平均正答率が、65.1%で最も高く、「B 書くこと」の区分の平均正答率が42.7%で最も低い。評価の観点「思考・判断・表現」で、平均正答率が58.4%であり、「知識・技能」の平均正答率に比べ2.5ポイント低い。
- ・(イ)では、全国に比べて正答数が0～3問の児童の割合が高く、正答数が10～13問の児童の割合は低い。

(ア) 分類別平均正答率

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			13	60	59	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	66.1	64.4	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	50.4	51.4	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.4	63.9	65.8
		B 書くこと	2	42.7	43.8	45.7
		C 読むこと	2	65.1	65.3	65.9
評価の観点	知識・技能	6	60.9	60.1	62.0	
	思考・判断・表現	7	58.4	58.6	60.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	60.3	60.4	61.9	
	短答式	2	63.2	60.2	62.6	
	記述式	2	52.3	53.2	54.9	

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



出題の趣旨

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

「学びの改善ポイント」を読んで、問2四をふりかえろう！

むずかしいと感じた人が多い問題

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は爽やかさを連想させ、すずしうに見える」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。
また、

5 暑わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをささざるくふうや、衣服の色、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文例)

集めた情報	
本の題名	本文の一部
色の効果	青は爽やかさを連想させ、すずしうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反射しやすいため、熱くなりやすい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

図 花山さんは、「集めた情報」をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色」について考えた。このように書き表しています。あなただけが花山さんなら、何色かについて考えた。に入る内容を、おたのしみに読んでください。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう
1 はじめに
夏休みには外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがみじかい方がすずしいのではないかな。なぜ、長そでの服を着ているのか、ふとふとに思いついた。暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることになった。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか
「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日陰に身をよせる、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服で包みこんでいる人たちがいる。夏に熱い日差しを浴びない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうか。
では、すずしく過ごせる長そでの服の着方があるのだろうか。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方があるのか
「熱中しうかん境健康マニュアル2022」には、暑さをさげる衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「より通気性を高める」などと書かれている。また「夏のくらし方」という本には、「服とは体の間に風が通るように作り光や熱をきゅうしゅうさせると、すずしくなります。」と書かれている。②図のように衣服の色や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうか。
では、衣服の色や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。



正答例

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反射しやすいため、熱くなりやすい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうか。

誤答例

白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。

関係する教科書の単元等

2年 こんなもの、見つけたよ
3年 仕事のくふう、見つけたよ
4年 新聞を作ろう
4年 もしものときにそなえよう

5年 みんなが使いやすいデザイン
5年 自然環境を守るために
6年 発見、日本文化のみりよく
6年 おすすめのパンフレットを作ろう

学びの改善ポイント

- 誤答例では、涼しく過ごせる衣服の色については書いていますが、【集めた情報】から本の題名や本文を引用できていません。また、本文を用いていても、引用部分と自分の考えを区別して書けていないことが考えられます。
- 引用する方法として、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことを理解しておく必要があります。
- また、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことも大切です。

調査問題

解説資料



5-2 教科別 調査結果 (中3・国語)

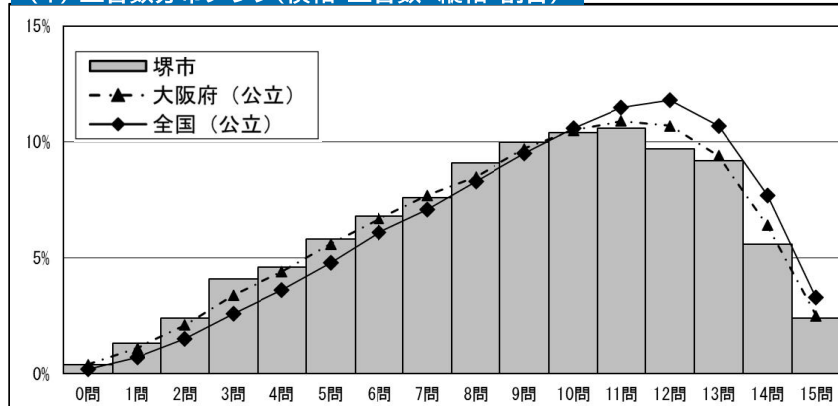
下の資料からわかる本市の状況

- ・(ア)では、学習指導要領の内容のうち、「B 書くこと」の区分の平均正答率が62.6%で最も高く、「C 読むこと」の区分の平均正答率が55.3%で最も低い。評価の観点「思考・判断・表現」で、平均正答率が58.8%であり、「知識・技能」の平均正答率に比べ1.8ポイント低い。
- ・(イ)では、全国に比べて正答数が0～9問の生徒の割合は高く、正答数が10～15問の生徒の割合は低い。

(ア) 分類別平均正答率

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			15	59	61	63.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	59.4	60.4	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	66.3	66.8	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	58.4	60.2	63.9
		B 書くこと	3	62.6	64.5	67.4
		C 読むこと	3	55.3	56.8	59.7
評価の観点	知識・技能	6	60.6	61.4	64.2	
	思考・判断・表現	9	58.8	60.5	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	69.2	70.3	72.7	
	短答式	3	51.6	52.5	55.8	
	記述式	3	38.4	40.9	45.5	

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学びの改善ポイント」を読んで、問3四をふりかえろう！

むずかしいと感じた人が多い問題

出題の趣旨

表現の工夫とその効果について、読みてからの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる。

四 石井さんは、自分が書いた文章について、山田さん、田中さんと交流し、この文章のよい点や改善点と、それを踏まえた今後随筆を書くときに生かしたいことをメモにまとめています。あなたならどのように書きますか。

①段落についての交流場面①をもとにしたメモ①の書き方を参考にしながら、②段落についての交流場面②をもとにして「メモ②」を書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

①段落についての交流場面①

石井 ①段落で、絵を描くことが趣味だということに印象付けるように工夫したのですが、どうでしたか。

田中 「その時々私の気持ちを相棒が教えてくれる」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。

山田 スケッチブックはこれまでの自分の気持ちが詰まっているものだから、「相棒」よりふさわしい比喩もあるのではないかと思います。

【メモ①】

＜よい点や改善点＞
冒頭で「私には趣味がある。」と趣味が何かを明かさないうことによつて、読み手に先を読みたいと思わせることができた。

＜生かしたいこと＞
随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。

【メモ②】

＜よい点や改善点＞
冒頭で「私には趣味がある。」と趣味が何かを明かさないうことによつて、読み手に先を読みたいと思わせることができた。

＜生かしたいこと＞
随筆を書くときは、書き出しの工夫をする。

学びの改善ポイント

- 誤答例では、＜生かしたいこと＞について、比喩の用い方など、今後随筆を書くときに生かしたいことを書くことはできていますが、【1段落についての交流場面②】の内容を基にして、比喩表現の言葉に立ち止まって＜よい点や改善点＞を書くことができていません。
- 「書くこと」の学習では、読みてからの助言などを踏まえて、自分が書いた文章の＜よい点や改善点＞を書き自身が見いだすことが求められます。「推敲」とは異なり、書き終えた文章について、読みてからの感想や助言を基に、自分の文章を振り返り、次の書く活動にどのように生かすかを考えることが重要です。

正答例

＜よい点や改善点＞
スケッチブックを人のように表現することによって、読みての印象に残すことができた。

＜生かしたいこと＞
随筆を書くときは比喩を効果的に用いる。

誤答例

＜よい点や改善点＞
スケッチブックには、これまでの自分の気持ちがつまっている。

＜生かしたいこと＞
よりふさわしい比喩を見つけ、気持ちが伝わるように工夫する。

関係する教科書の単元等

- 1年 根拠を明確にして書こう
- 2年 描写を工夫して書こう

調査問題

解説資料



5-3 教科別 調査結果 (小6・算数)

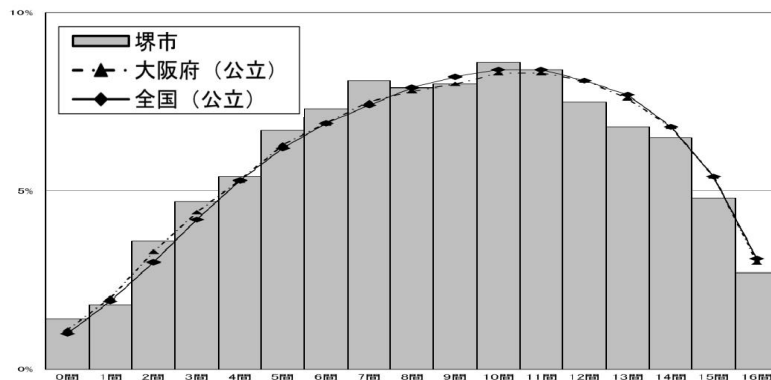
下の資料からわかる本市の状況

- ・(ア)では、学習指導要領の領域のうち、「C 測定」の区分の平均正答率が76.1%で最も高く、「C 変化と関係」の区分の平均正答率が39.9%で最も低い。評価の観点「思考・判断・表現」で、平均正答率が43.2%であり、「知識・技能」の平均正答率に比べ15.3ポイント低かった。
- ・(イ)では、全国に比べて正答数が0～7問の児童の割合は高く、正答数が12～16問の児童の割合は低い。

(ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題 数 (問)	平均正答率(%)		
			堺市	大阪府 (公立)	全国(公 立)
全体		16	55	56	56.4
学習指導要領の領 域	A 数と計算	8	59.3	61.1	61.1
	B 図形	4	53.2	54.2	55.3
	C 測定	1	76.1	77.6	78.1
	C 変化と関係	3	39.9	40.6	41.1
	D データの活用	4	46.3	48.0	48.6
評価の観点	知識・技能	12	58.5	59.8	60.1
	思考・判断・表現	4	43.2	44.9	45.4
	主体的に学習に取り組む 態度	0			
問題形式	選択式	5	54.6	55.8	56.0
	短答式	8	58.0	59.1	59.7
	記述式	3	45.9	48.1	48.5

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学びの改善ポイント」を読んで、問3(3)をふりかえろう！

むずかしいと感じた人が多い問題

出題の趣旨

単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断する。

(3) AとBの2つのペンギンの広場があります。

下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。

広場にいるペンギンの数と広場の面積		
	ペンギンの数 (羽)	面積 (m ²)
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方が混んでいるかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

A $10 \div 20 = 0.5$

B $12 \div 30 = 0.4$

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方が混んでいるのかについて、下のようにまどめます。

下の ア と イ、ウ と エの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は

ア | m²あたりのペンギンの数を求めています。

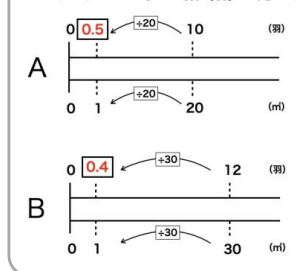
イ | 羽あたりの面積

ウ 商が大きいAの広場の方が混んでいることがわかります。
エ 商が小さいBの広場

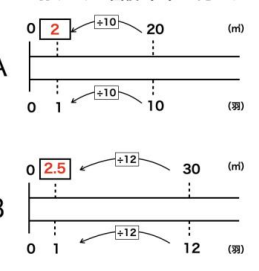
学びの改善ポイント

どちらの広場がこんでいるかを調べるためには、「ペンギンの数」と「面積」の2つの数量の関係に着目することが大切です。

「ペンギンの数」と「面積」のいずれか一方に数をそろえたと比べると比べることができます。ことねさんの計算のように、「1m²あたりのペンギンの数」か「1羽あたりの面積」かのどちらにそろえて考えているのかを捉えられるよう、数直線などの図を用いて数量の関係を表し、式の意味と図を関連づける学習を大切にしましょう。

1m²あたりのペンギンの数(羽)で比べる

1羽あたりの面積(m)で比べる



正答例

ア (1m²あたりのペンギンの数)
ウ (商が大きいAの広場)

誤答例

ア・エ…13.7%
イ・ウ…23.9%
イ・エ…22.8%

関係する教科書の単元等

5年 平均
5年 単位量当たりの大きさ
5年 割合

調査問題



解説資料



5-4 教科別 調査結果 (中3・数学)

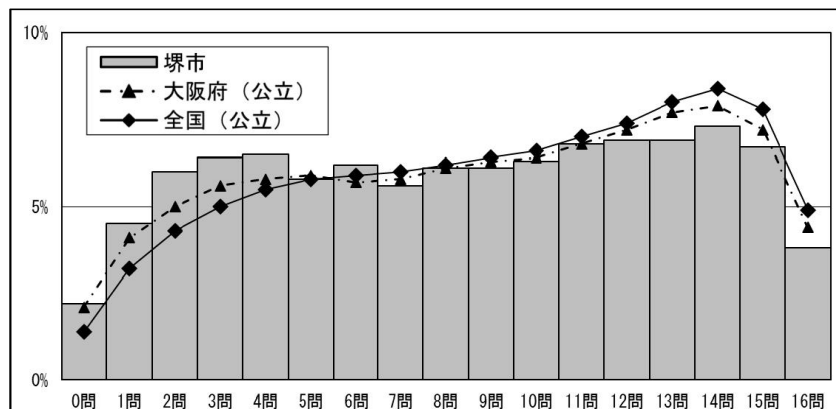
下の資料からわかる本市の状況

- ・(ア)では、学習指導要領の領域のうち、「A 数と式」の領域の平均正答率が、63.2%で最も高く、「B 図形」の領域の平均正答率が47.0%で最も低い。
- ・評価の観点「思考・判断・表現」の平均正答率が33.3%であり、「知識・技能」の平均正答率に比べ25.9ポイント低い。(イ)では、全国に比べて正答数が0～4問の生徒の割合は高く、正答数が9～16問の生徒の割合は低い。

(ア) 分類別平均正答率

分類	区分	対象問題 数 (問)	平均正答率(%)		
			堺市	大阪府(公立)	全国(公立)
全体		16	53	55	57.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	63.2	65.6	67.8
	B 図形	4	47.0	48.0	48.7
	C 関数	3	50.1	52.8	54.8
	D データの活用	4	47.2	49.7	53.5
評価の観点	知識・技能	12	59.2	60.9	63.0
	思考・判断・表現	4	33.3	36.6	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	54.5	56.1	59.3
	短答式	9	60.7	62.6	64.2
	記述式	4	33.3	36.6	39.1

(イ) 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



「学びの改善ポイント」を読んで、問7(2)をふりかえろう！

むずかしいと感じた人が多い問題

出題の趣旨

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

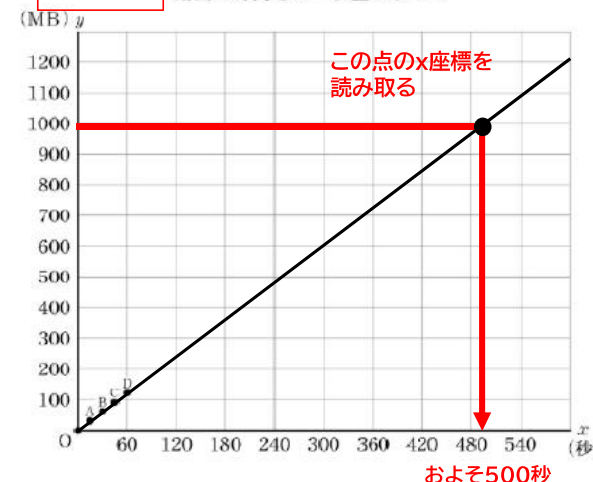
光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MBまでにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

(2) 光希さんは、1000 MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

グラフ

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000 MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

調べた結果

表や数値



学びの改善ポイント

誤答例では、「用いるもの(グラフ、式、表や数値)」「用い方(問題解決するためにどう用いたか)」のうち、いずれか一方にしか答えられていません。数学的に説明するためには、グラフ、式、表や数値など数学的な表現を用いる必要があります。まずは、解決の方法をグラフ、式、表や数値を用いて表現することや、問題解決を振り返る場面において、どのような方法で解決したのかを整理することが大切です。

正答例

- 例1) 原点Oから点Dをもとに、直線のグラフをかき、 y 座標が1000のときの x 座標を読む。(グラフ)
 例2) x と y の関係を比例の式で表し、その式に $y=1000$ を代入し、 x の値を求める。(式)
 例3) 表の x と y の数値から比例定数を調べ、その比例定数で y の値が1000になるときの x の値を求める。(表や数値)

誤答例

- 例1) 点Oと点Dを直線で結んで求める。
 例2) x と y の関係を比例の式で表す。
 例3) 1MBあたりの動画の時間を求める。

関係する教科書の単元等
 1年 比例・反比例
 (4) 比例・反比例の利用

調査問題

解説資料



5-5 教科別 調査結果（中3・英語）

下の資料からわかる本市の状況

- ・（ア）では、日常的な話題に関する短い会話や文章を正確に聞き取ったり、書いたりすることについては概ねできている。
一方、社会的な話題に関する英文を読んで、自分の考えやその理由を書くことに課題がある。
- ・（イ）では、IRTバンドで2及び3の生徒の割合が高い。

（ア）分類別平均正答率

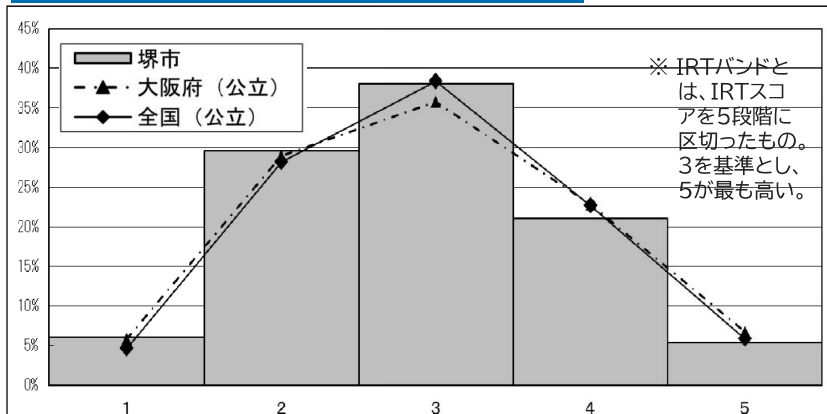
問題は、全生徒が取り組んだ問題と生徒ごとに異なった問題（公開及び非公開問題）があります。

	全生徒が取り組んだ公開問題 （聞くこと・読むこと・書くこと）	IRT スコア 聞くこと・読むこと・書くこと		
	平均正答数	堺市	大阪府	全国
堺市	3.7 問/7 問	491		
大阪府	3.7 問/7 問	498		
全国	3.7 問/7 問	499		

全生徒が取り組んだ公開問題における 学習指導要領の領域及び評価の観点		平均正答率（％）		
		堺市	大阪府	全国
領域	聞くこと	57.0	56.8	57.9
	読むこと	56.0	56.1	57.4
	話すこと ※	※	※	※
	書くこと	46.5	46.9	46.5
評価の観点	知識・技能	58.6	58.9	59.8
	思考・判断・表現	43.8	43.6	43.6

※「話すこと」の平均正答率は令和8年9月以降に国から結果が提供される予定です。

（イ）正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



「学びの改善ポイント」を読んで、問10(2)をふりかえろう！

むずかしいと感じた人が多い問題

出題の趣旨

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか



学びの改善ポイント

英語の授業で「自分の考えや理由を書く」ときは、聞いたり読んだりした内容の「要点」をマッピング等でまとめておく効果的です。また、次のことを意識して書く学習に取り組むことを心がけましょう。

- ①聞いたり読んだりした内容に関する賛否や自分の意見を書く。
- ②自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にして書く。
- ③読みてにわかりやすい文章になるように、内容を整理したり、論点を明らかにしたり順序付けを行ったりして書く。

正答例

【書きての意見に対する自分の考えを書いている】と【その理由を書いている】の両方の条件を満たしているもの

誤答例

【書きての意見に対する自分の考えを書いている】と【その理由を書いている】のどちらか又はどちらの条件も満たしていないもの

関係する教科書の単元等

- 1年 協力を呼び掛けるポスターを作ろう
- 2年 Let's Have a Discussion
- 3年 投稿文を読んで、自分の意見を書こう

調査問題

解説資料

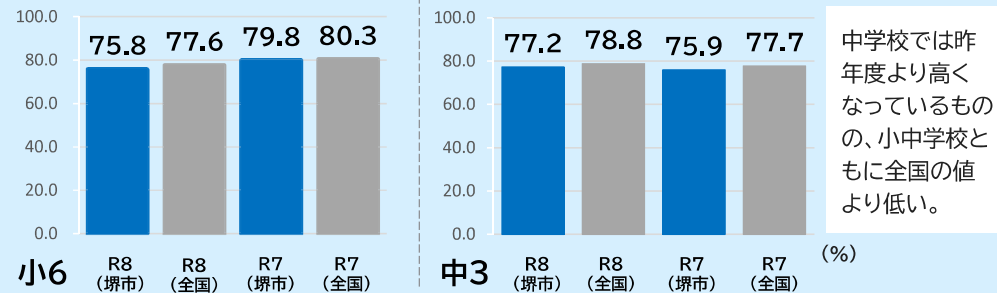


6-1 質問調査 結果概要

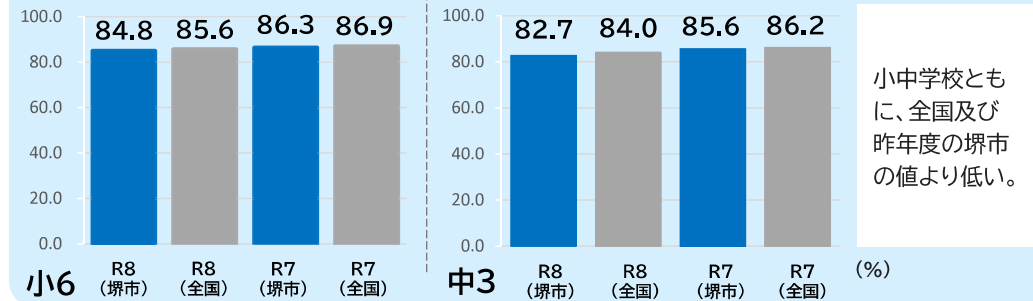
※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したことの割合の合計を表しています。

【主体的・対話的で深い学び】

5年生まで(中学校2年生まで)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

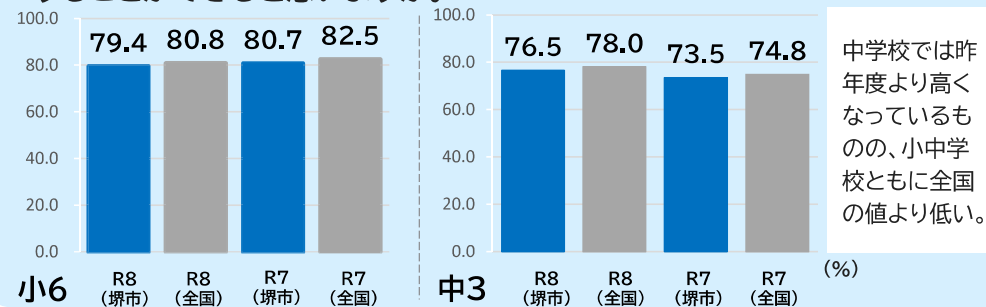


【自己有用感等】自分にはよいところがあると思いますか。

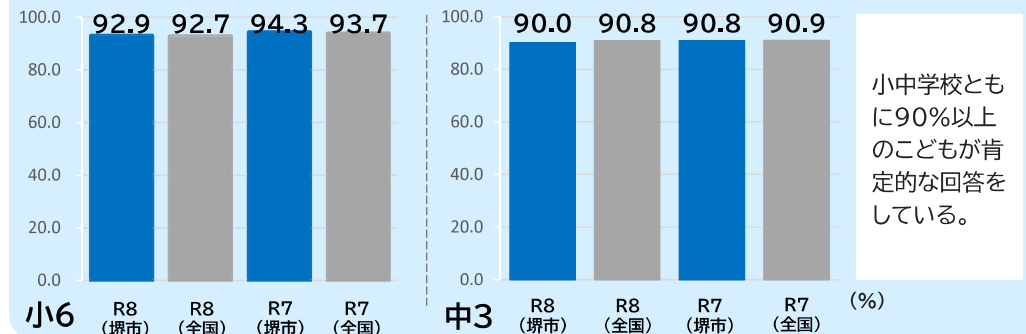


【主体的・対話的で深い学び】

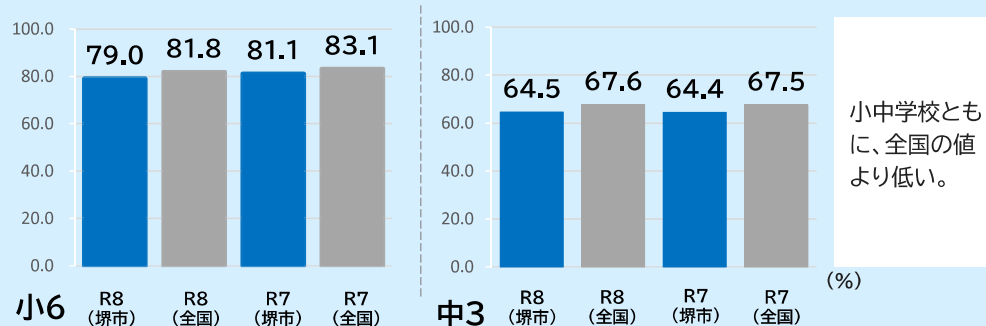
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。



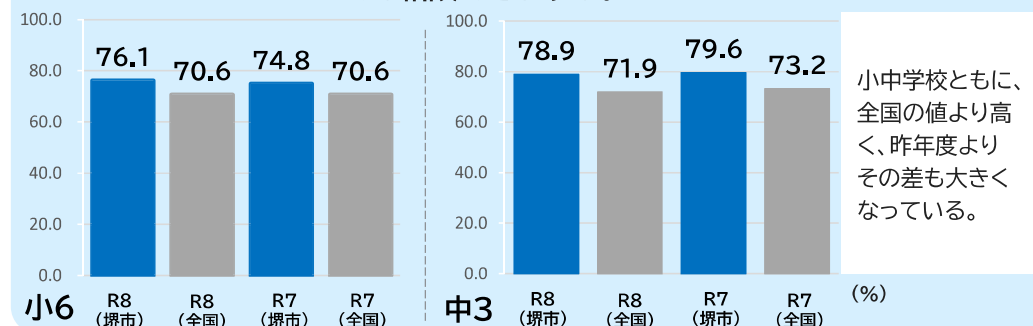
【向社会性】人が困っているときは、進んで助けていますか。



【学ぶ意義】将来の夢や目標をもっていますか。

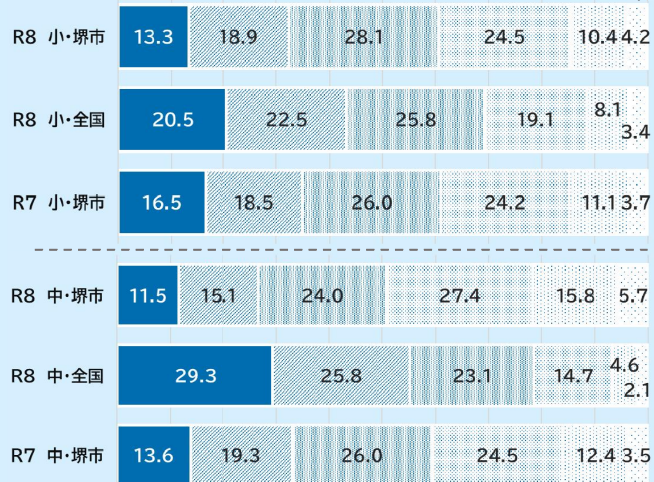


【大人への信頼】困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



6-2 質問調査 結果概要

【 ICTの利活用 】 5年生までに(中学校1、2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。(%)



ICT機器の使用頻度が前年度に比べて下がっている。また、「ほぼ毎日」の割合が、小中学校ともに、全国の値より低い。

左から順に

ほぼ毎日(一日に複数の授業)
ほぼ毎日(一日に一回くらいの授業)
週3回以上
週1回以上
月1回以上
月1回未満

【 家庭学習 】 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(%)

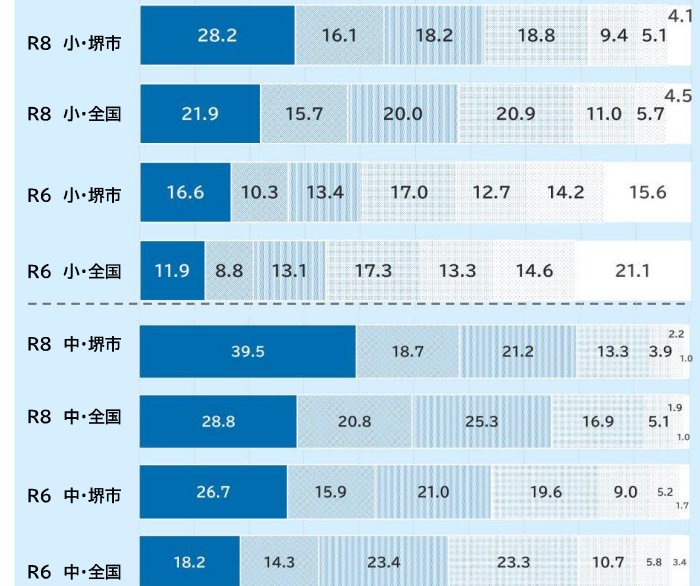


授業時間以外に1時間以上学習している時間は、小学校に比べて中学校が多い。
「3時間以上」の割合が、全国の値より高い一方で、「全くしない」の割合も高い。

左から順に

3時間以上
2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない
30分より少ない
全くしない

【 SNS 】 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等(以下、「スマートフォン等」)でSNSや動画視聴などをしますか(スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く)。(%)
※令和6年度は携帯電話やスマートフォンのみ対象

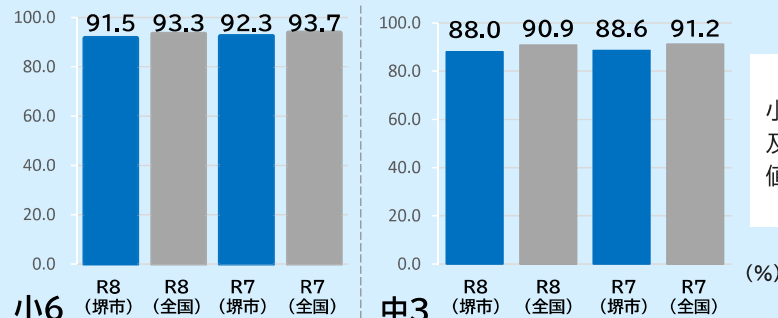


左から順に

4時間以上
3時間以上、4時間より少ない
2時間以上、3時間より少ない
1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない
30分より少ない
スマートフォンを持っていない

小中学校ともに「4時間以上」の割合が、全国の値より高い。

【 生活習慣 】 朝ごはんを毎日、食べていますか。



小中学校ともに、全国及び前年度の堺市の値より低い。

※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答したことの割合の合計を表しています。

規則正しい生活習慣を身に付け、自分の行動を自分で律する力をつけることが、学力向上にもつながります。



- 1 早寝早起きの習慣をつけよう
- 2 朝ごはんを毎日食べよう
- 3 家族との対話を大切にしよう
- 4 学校に持って行くものを前日に確かめよう
- 5 宿題など自分から進んで勉強しよう
- 6 テレビやゲームの時間を決めよう
- 7 本を読む時間をつくろう

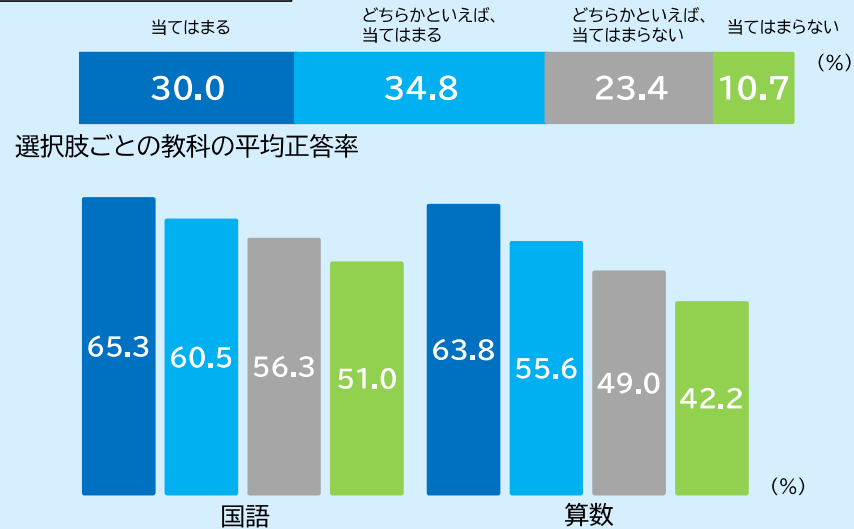
家での7つのやくそく



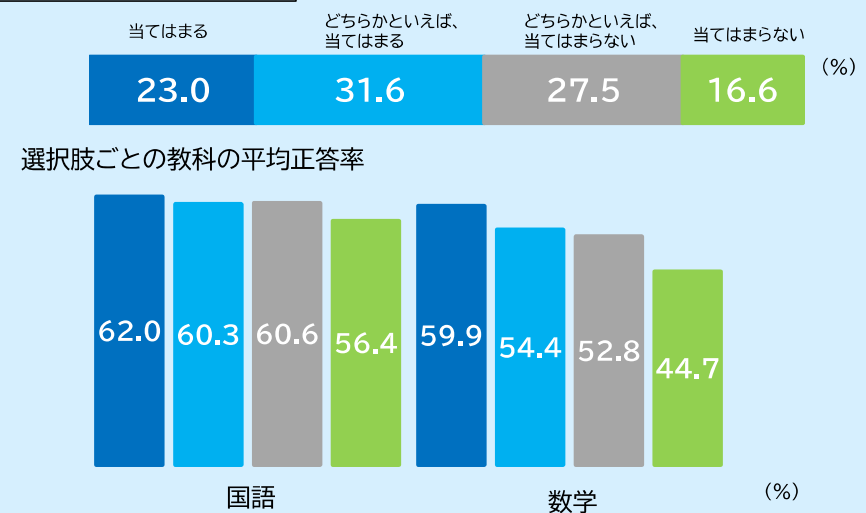
7 クロス分析

●「算数(数学)の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか。」に肯定的な回答をした児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向にある。

R8 堺市小学校

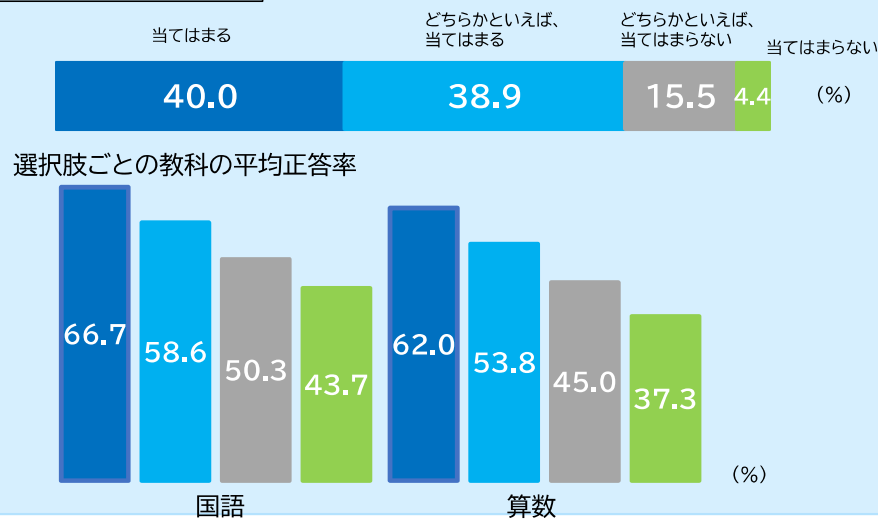


R8 堺市中学校

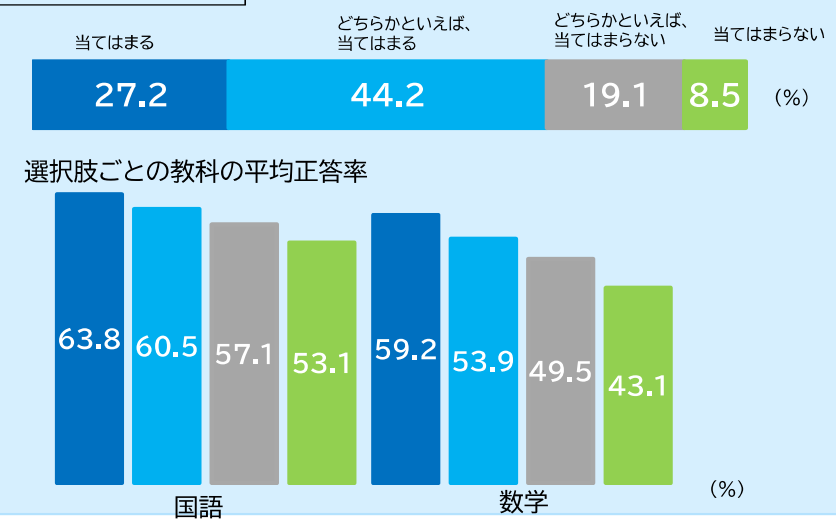


●「総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか。」に肯定的な回答をした児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向にある。

R8 堺市小学校



R8 堺市中学校



8 堺市教育委員会の主な取組一覧

堺市では、「総合的な学力」の育成のため、以下のことに取り組んでいます。

【各種調査結果の活用】

- ・ こどもが自身のつまずきに気づき、自ら学びを進められるよう「ドリルパークで学ぶ力を育てようシート」を提供。
- ・ 調査結果を「授業の改善ポイント」にまとめ、つまずきのポイントや9年間の指導の系統性を示し、学力向上に向けた効果的なカリキュラム改善を支援。
- ・ 全国学力・学習状況調査に加え、IRTを活用した堺市学力・学習状況調査(小4～中2対象)を年1回実施。調査結果を活用し、個に応じた指導支援の工夫や教育実践の改善を推進。
- ・ 各調査後には、小・中学校が調査結果を活用することができるよう「総合的な学力向上に関する研修会」を実施。

【授業改善の推進】

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実装に向け、こどもが自らの学びを自覚して進める授業づくりを図り、校内研修を軸に個々の学びの状況を把握することも理解と、それを支える教科の本質を捉える教材理解の双方から授業改善に取り組む。
- ・ 総合的な学習の時間において、地域や社会とのつながりを大切に、教科の視点の充実を図りながら、より探究的な学びを進めるために「堺STEAMブック」を作成し授業で活用。
- ・ 学びのインフルエンサー(こどもの学び研究員)やICTインフルエンサー(ICT活用推進研究員)の派遣等により、授業改善例を示し広く周知。
- ・ 自校の取組を公開したい学校と、他校の取組を参考にしたい学校をマッチングする「学校間マッチング」を実施。
- ・ 学校園へ指導主事を派遣し、授業づくりの支援、事前検討会への参加や研究授業当日の指導助言、校内研修の講師として研修を実施。
- ・ 教職員の主体的な研修・研究を推進し教職員の研究力を高めるため、講師招聘や先進校視察の支援に加え、実践研究の効果検証方法等を学ぶ「研究サポート」を実施。
- ・ 学校の実態に応じた学力向上のための取組の充実と校長のマネジメントの支援のため、学力向上アドバイザーを新任校長等に対して派遣。

【学びに向かう習慣づくり】

- ・ 家庭学習の習慣づくりの支援として「堺版 家庭学習のてびき」を作成し、2学期中に配付予定。
- ・ モデル中学校7校で学習動画コンテンツを活用して個々のこどもの状況に応じた学習内容の補充や復習を支援。
- ・ 学校図書館における「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」としての機能の充実に向けて、全校に学校司書を配置し、学校図書館サポーターとの連携により読書環境を整備。また、司書教諭や学校司書を対象とした研修を実施。